社会福祉法人こころん
熊田（くまだ） 芳江（よしえ）さん

泉崎の豊かな食を通して障がい者と地域をつなぐ

『社会福祉法人こころん』は、主に精神障がい者の就労支援を目的として設立されました。〝農福連携〟をテーマに地域の資源を生かし、住み慣れた場所で暮らし続けることができるようさまざまなサポートを行っています。立ち上げの理由について、常務理事の熊田芳江さんはこう語ります。

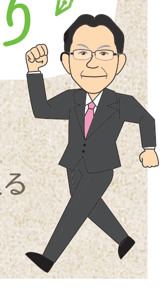
「精神保健福祉士として働く中で、障がい者の働く場所がない、居場所がないことを目の当たりにしました。たとえ障がいがあってもできることはたくさんありますし、その能力を生かす場が必要と考えました」

『こころん』では『直売カフェこころや』のほか、お菓子作りの工房、無農薬野菜の農場や養鶏場など、〝食〟の生産現場を軸にしたいくつもの事業を展開。現在１００名ほどの利用者がそれぞれの持ち

vol.10

知事だより

知事の活動を伝えるコーナー！



笑顔の花咲く浪江町の花き栽培を体感してきました。

浪江町の特定非営利活動法人Ｊｉｎ（じん）を訪問し、地元で花き栽培に取り組んでいる方々のお話を伺ってきました。皆さんは、花き栽培を通して、若い人が浪江町で働き、暮らすためのモデルづくりに取り組まれており、「ふるさとを守りたい」という熱い思いと、「日本トップクラスの高品質な花を育てたい」という目標をお聞きしました。

お花に負けない素敵な笑顔で、明るく前向きに話される姿を見て、私もたくさんの元気をいただきました。

特定非営利活動法人Ｊｉｎ（浪江町）

トルコギキョウはまだつぼみでしたが、皆さんの笑顔が満開でした。

おすすめは
新鮮卵と野菜たっぷりの
日替わりランチ

▲ 直売所併設のカフェではその日仕入れた食材を使った手作りのランチやスイーツを味わうことができる。

▲ カフェスペースでは県内外の食のプロを招いた料理教室も定期的に開催。詳細はブログなどでチェックを。

場で働いています。

「障がいのせいで自信がなかったり、社会との接触を拒否したりしてしまう方が多くいます。就労支援を受けることで積極的になり、一般企業に就職が決まるケースもあります」

閉鎖的な空間にするのではなく、地域に開かれた場にすることで一般の人との交流も生まれ、利用者にも良い影響があると熊田さん。

特に直売所には、新鮮な野菜や無添加にこだわった加工品を求めてたくさんのお客さんが訪れ、毎日にぎわいを見せています。地域に根ざした取り組みが評価され、第4回『ふくしま地産地消大賞』の優秀賞を受賞しました。

「誰しも社会生活の中で自分らしさを発揮します。違いがあって当たり前。それを認めることで、新しい価値観も生まれるのではないでしょうか」

【問い合わせ先】
直売カフェこころや
西白河郡泉崎村大字泉崎字川畑37-1
☎0248(53)5568

外から見た福島のイイトコロ教えます

ふくしま 二重マル

「乗り鉄」なので、只見線が大好き！

徐 銓軼（じょ せん い）さん
（中国出身）

国外や県外出身の人から見た福島を知るコーナー。
第11回は、奥会津地域おこし協力隊の徐さんです。

福島が大好きで、ずっとここにいたい！

福島に来て７年目。２人の子どもは福島生まれで、そのことを誇りに思っています。温泉が好きで、木賊（とくさ）温泉は奥さんと泊まった思い出の場所。友だちが福島に来たら、温泉めぐりをしたいです。

現在は地域おこし協力隊として、奥会津のＰＲや移住・定住者の支援をしています。海外との文化交流や只見線のＰＲなど、まだまだやりたいことがいっぱいあります！

長男の天佑（てんすけ）さんと
只見町の
稲刈りイベントで

読者からのお便り
福島キラリの新鶴ワイナリーに興味を持ちました。繊細な作業、天気とにらめっこ…と、大変そうです。オープンしたらぜひ行ってみたいです。（会津若松市 40代）